

## 平成20年度 神戸市学力定着度調査の結果について

神戸市教育委員会は、児童生徒の学力定着状況を把握し指導改善に役立てるために、平成15年度より独自の学力定着度調査を行っている。このたび20年度の調査結果を下記の通り取りまとめた。

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の対象学年と対象児童・生徒数

	抽出数	備考
小学校第5学年	1,330人	全市小学校第5学年の約10%（抽出校50校）
中学校第2学年	1,210人	全市中学校第2学年の約10%（抽出校25校）

#### (2) 調査方法と調査教科・内容

調査方法・対象学年等	調査教科・内容
学力定着度調査	小学校第5学年 国語・社会・算数・理科（選択式・一部記述式）
	中学校第2学年 国語・社会・数学・理科・英語（選択式・一部記述式）
質問紙調査	小5児童・中2生徒 学習に対する意識・生活実態調査（選択式）

※調査問題は、過去の教育課程実施状況調査（文部科学省）等を使用

#### (3) 実施日（標準実施日）

平成20年10月28日（火）29日（水）

### 2. 調査結果の概要

#### (1) 各教科の調査結果

- 平均正答率が目標正答率を上回った教科は、小学校国語・社会、中学校国語・社会・数学・理科の6教科であった。小学校算数・理科、中学校英語の3教科については目標正答率を下回った。
- 小中学校の各教科ともに目標正答率に対して±5ポイントの範囲に入っており、神戸の子どもの学力は概ね定着している。
- 領域別に見ると、小学校理科の「物質とエネルギー」領域、中学校国語の「読むこと」領域に課題が見られた。また、小学校社会の「日本の自然」領域、中学校国語の「言語事項」領域、中学校数学の「数と式」、「図形」領域は良好な結果であった。

#### (分析・評価基準)

- 目標正答率：今回の調査問題に利用した13、15年度教育課程実施状況調査（文部科学省）の全国正答率及び、過去の神戸市独自問題・他府県問題における正答率
- 教科全体・領域別・設問毎の正答率について、目標正答率との比較を行い、3段階で表記した。
  - +5ポイント以上……………「良好」「定着している」
  - +4.9～-4.9ポイント……「概ね良好」「概ね定着している」
  - 5ポイント以上……………「課題がある」

#### (2) 学習に対する意識・生活実態調査

- 「授業が分かる」児童生徒の割合は、小学校では2.4ポイント前年度を上回り、2010ビジョンの数値目標を達成した。しかし、中学校では前年度を2.5ポイント下回った。
- 「1日家庭で1時間以上勉強する（学習塾などを除く）」児童生徒の割合が、小学校で1.1ポイント、中学校で1.0ポイント減少した。
- 「1日に3時間以上テレビを見る」割合が、小学校で1.5ポイント、中学校で4.9ポイント増加した。

### 3. 各教科の全設問・領域別調査結果の概要

上段は20年度神戸市平均正答率〔%〕、下段（ ）は目標正答率〔%〕

#### 《小学校》

	全設問	領域別			
国語	77.6 (77.1)	聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
		78.4 (74.9)	75.3 (77.0)	81.2 (82.9)	77.1 (76.3)
社会	71.5 (70.7)	日本の自然	日本の国土	日本の農業	日本の水産業
		68.3 (60.9)	89.6 (86.9)	63.1 (65.0)	68.6 (72.3)
算数	71.1 (72.1)	数と計算	量と測定	図形	数量関係
		72.7 (74.2)	82.0 (78.7)	66.1 (68.5)	69.0 (68.6)
理科	72.8 (76.2)	生物とその環境	地球と宇宙	物質とエネルギー	
		81.7 (82.3)	78.1 (75.8)	60.2 (68.9)	

#### 《中学校》

	全設問	領域別			
国語	61.7 (61.3)	聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
		56.3 (58.7)	62.6 (61.1)	56.7 (63.2)	69.4 (60.3)
社会	57.7 (57.2)	地理		歴史	
		57.6 (57.1)		57.8 (57.3)	
数学	66.7 (61.8)	数と式	図形	数量関係	
		62.9 (55.2)	65.8 (60.0)	70.0 (67.4)	
理科	58.2 (57.2)	第1分野（物理・化学分野）		第2分野（生物・地学分野）	
		54.8 (54.2)		60.6 (59.3)	
英語	60.7 (62.5)	聞く	読む	書く	
		70.3 (73.8)	62.2 (63.7)	44.9 (44.8)	

4. 学習に対する意識・生活実態調査結果の経年比較

※19, 18, 17年度調査との比較

調査項目	年度	小学校 (%)	中学校 (%)
①「学校が好きだ。」 (「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)	20	83.5	70.8
	19	82.9	73.6
	18	82.8	74.7
	17	81.7	72.9
②「勉強が好きだ。」 (「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)	20	55.4	16.0
	19	53.4	17.2
	18	52.7	20.7
	17	49.3	19.0
③「勉強は大切だ。」 (「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)	20	92.5	87.9
	19	94.3	90.4
	18	92.5	90.5
	17	94.1	89.2
④「学校の授業が分かる。」 (「よく分かる」「だいたい分かる」の合計)	20	92.0	71.9
	19	89.6	74.4
	18	90.3	74.5
	17	90.0	70.8
「国語の授業が分かる。」 (「よく分かる」「だいたい分かる」の合計)	20	85.7	66.4
	19	82.6	66.8
	18	84.1	63.0
	17	83.6	57.5
「算数・数学の授業が分かる。」 (「よく分かる」「だいたい分かる」の合計)	20	77.4	54.6
	19	78.2	58.7
	18	77.3	59.1
	17	78.0	52.6
⑤「1日家庭で1時間以上勉強する。」(学習塾などを除く。)	20	35.3	24.7
	19	36.4	25.7
	18	32.4	24.5
	17	38.3	23.5
「1日家庭でほとんど勉強しない。」	20	6.3	31.7
	19	7.3	27.5
	18	7.2	28.7
	17	6.1	27.2
⑥「学校に行く前に朝食を必ず食べる。」	20	81.8	72.8
	19	83.7	74.1
	18	81.1	72.3
	17	77.5	71.6
⑦「1日に3時間以上テレビを見る。」	20	28.0	27.5
	19	26.5	22.6
	18	28.3	26.3
	17	29.4	30.1
⑧「1ヶ月にほとんど本を読まない。」	20	26.0	34.5
	19	26.4	40.8
	18	29.6	43.2
	17	29.2	38.5
⑨「毎日の睡眠時間が7時間未満である。」(小学校)	20	18.9	
	19	18.1	
	18	18.4	
	17	20.5	
「毎日の睡眠時間が6時間未満である。」(中学校)	20		19.8
	19		21.5
	18		23.2
	17		20.9

## 5. 学力と学習に対する意識・生活実態との相関関係

項目	相関の有無
①「学校の授業が分かる」 ×学力の定着度	すべての教科で明らかな相関が見られる。
②「家庭での学習時間」 ×学力の定着度	小学生では1～2時間、中学生では2時間前後の児童生徒が正答率が高い。
③「朝食の摂取」 ×学力の定着度	「必ず食べる」児童生徒の方が、それ以外の児童生徒よりも正答率が高い。
④「睡眠時間」 ×学力の定着度	小学生は8～9時間、中学生は7～8時間程度の睡眠をとる児童生徒の正答率が高い。
⑤「一ヶ月の読書量」 ×学力の定着度	小学生、中学生ともに「ほとんど読まない」児童生徒の正答率は、それ以外の児童生徒よりも低い。

## 6. 今後の対応

### (1) 教科指導の改善

- 小学校算数：市独自の開発教材「算数ダッシュ」「算数エース」等を活用し、反復練習による計算力の確実な習得を図る。また分度器やコンパス等を使って測ったり作図したりする活動を充実させ、図形の性質への理解を深めていく。
- 小学校理科：実験・観察を重視するとともに、「理科アシストカード」（今年3月、神戸市小学校教育研究会理科部と市教委が共同で開発）を活用し、実験の目的や手順、結果や考察をまとめる学習の充実を図る。
- 中学校英語：基本的な文例を確実に理解させるとともに、様々な場面設定で実際に英語を活用できるよう指導の充実を図る。「聞く力」「読む力」を高めるため、ALTと神戸市中学校教育研究会英語部、市教委が共同で新たな視聴覚教材や読み物教材を開発する。

### (2) 国語力の育成・読書活動の充実

- 小中学校の全教科で「読んで 考えて 書く」指導を充実させる。小学校では「ことばひろがる よみときブック」の一層の活用を図るとともに、効果的な指導計画や活用事例をまとめた「よみときブック活用事例集」を作成、発行する。
- 読書習慣の向上を目指し、読書活動を推進する。推進校の先進的取組をまとめた「読書活動実践事例集」（今年3月配布）を活用し、学校図書館の充実やボランティアとの連携、朝の読書の推進等に取り組んでいく。

### (3) 家庭学習と生活習慣支援

- 市教委作成の「学習の手引き事例集」（小学校高学年、中学校用）を参考に、各学校の実態に即して「学習の手引き」を作成し、家庭における学習習慣や生活習慣の定着を図る。今年度は小学校中学年・低学年用を開発し、全小学校に配布する。
- 家庭での生活習慣（睡眠時間や朝食の摂取、テレビの視聴等）について、保護者と連携した取組を呼びかける。その一環として、現行の「もうすぐ1年生」を、生活習慣・学習習慣の改善の項目を入れ全面改訂のうえ、年度末に小学校新1年生の全保護者に配布し、家庭教育の啓発を図っていく。